

【講座名】	講座Ⅲ「それぞれの学びの場での教科指導における実践報告」②
【講師】	<p style="text-align: center;">県立日南くろしお支援学校 教諭 鈴木 剛</p> <p style="text-align: center;">延岡市立北方学園 教諭 若松 志帆</p> <p style="text-align: center;">宮崎大学教育学部附属中学校 教諭 水谷 泰</p>
<p>1 実践報告内容</p> <p>「学習上の困難を抱えた子どもたちへの校内サポート体制～なんか、おもしろそう！な支援学級を目指して～」</p> <p style="text-align: right;">延岡市立北方学園 教諭 若松 志帆</p> <p>(1) 校内サポートの時間割</p> <p>○ 時間割の固定化（火～土の朝に漢字の練習、支援学級で個別学習をする教科は1～3校時、少人数・TTが必要な時間割は5校時）</p> <p>(2) 児童への支援・指導の実践（事例1 支援学級でのサポート）</p> <p>○ 学習内容を精選し、生活単元に応用することによって、学力と生活力の向上を図った。</p> <p>○ 交流学級との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流学級の担任と指導内容を事前に検討し、予想される困り感へのサポートを依頼した。 ・支援学級の担任と交流学級の児童との人間関係も構築した。 ・交流学級の児童が交流時の情報提供を支援学級担任にしてくれたり、温かいまなざしで接してくれたりしたおかげで、支援学級の児童が生活の基盤を交流学級で過ごさせることができた。 <p>○ 音読指導へのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリーソフトでビジョントレーニングやデージーポッド（音声読み上げアプリ→正しい音読を聞き、反復して練習）を活用した。 ・文章にスラッシュを打ち、文節ごとに区切って、音読の練習をした。 ・単語をフラッシュカードにし、1つの漢字でも複数の読み方があることを学習していった。 ・音読へのサポートをすることで教科書の文章をすらすら読めるようになり、音読に対する苦手意識が改善でき、自信を持って、交流学級でも発表ができるようになった。 <p>(3) 児童への支援・指導の実践（事例2 通常学級でのサポート）</p> <p>○ 漢字の学習が楽しいと実感できるようにする指導、教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延岡しろやま支援学校からパワーポイントの教材（筆順の確認）を提供してもらい朝の時間を使い、漢字の復習を行った。はてなボックスでどんな漢字が出てくるのか楽しみにさせたり、できた時にプリントに色を塗らせたりして達成感を味わわせた。 <p>(4) 児童への支援・指導の実践（事例3 支援学級と通常学級をつなぐサポート）</p> <p>○ 「みんなと学習したい」「前の学年の学習内容から復習して定着させたい」という児童と保護者の思いを受け、タブレットも活用しながら漢字の学習を行った。支援学級の児童と交流学級の児童と一緒に算数の少人数学習を行った。みんなと学習するのは楽しいと言いながら落ち着いて学習ができています。交流学級の児童も喜んで算数の学習に取り組んでいる。</p>	

(5) 成果と今後の課題

○ 成果

- ・本校の先生からサポートの相談、要請が増えた。
- ・支援学級の児童の学習意欲が向上した。

○ 課題

- ・校内支援体制の整備、確立
- ・教育支援計画の在り方と継続活用

2 感想

タイトルにもあるように、児童が実態に合った学習のサポートや校内の先生や児童の温かいまなざしで、自信がつき、学ぶ楽しさを実感し、交流学級の児童が「なんか、おもしろそう」と自然に言ってしまうような居心地のよい支援学級作りができているんだなと感じた。

講座の様子

